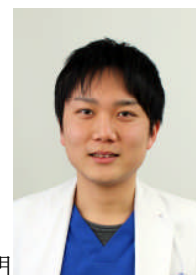


和歌山病院での実習を終えて



田中 秀門

1月30日、31日と2日間に亘って、和歌山病院呼吸内科で実習させていただきました。和歌山病院は煙樹ヶ浜に隣接した美しい土地にあると同時に、和歌山における貴重な結核病棟である、という印象を持っており、ぜひいつか訪問させていただきたいといつも考えており、とても期待が高まる実習でした。

私の心を見透かしているかのように、実習のスタートは結核についてのセミナーおよび、結核病棟の見学から始まりました。その時初めて、N95マスクを着けさせていただき、「なるほど、確かにこんなに息苦しくては患者にN95マスクをさせることは大きな負担になるな。また医療者は結核患者と接するときこのような見えない苦勞をしているのだな。」と身をもって感じました。またその後、結核病棟を見学させていただきました。初めて見させていただいたものは、私の想像よりはるかに開放的で清潔でした。もちろん二重扉になっていたり、病棟の入り口には陽圧のair showerがあったり、個室は陰圧になっており完璧な空気感染の防御機構は出来ていますが、個室、病棟全体には大きな窓があり、日光が差し込む、とても明るい気持ちになれる病棟でした。

「結核」と聞くと、空気感染し、感染が感染を呼び、咳が止まらなくなるnegativeなイメージのある疾患でした。特に一般の方、もっと言えば感染した患者にとってはより絶望を感じるものではないかと思えます。しかし、そのイメージがこの病棟を見れば少し気持ちは楽になれるのではないかと思いました。

また病院長のX線の読み方を教えていただくセミナーでは、これまでは教科書的に、~sign, ~lineといったような、異常所見にだけ注目する付け焼刃のような読影ではなく、正常はこのように撮影されるはずだということをロジカルにわかりやすく教えていただき、とても勉強になると同時に、教えるのではなく考えながら学ぶことによって二度と忘れることないセミナーになりました。

実習時間外では、病院長に食事会を開催していただき、どのようにして和歌山の呼吸器内科が発展してきたかなど、歴史を教えていただきとても興味のある話をしていただきました。また朝早く起きて、自転車をお借りして煙樹ヶ浜まで行かせていただいたのですが、とても綺麗で今でも目を閉じれば風景が浮かびあがる素晴らしいものでした。

実習を通して、呼吸器に関すること、並びにどの科に行っても必要となるであろうX線読影についてもレクチャーしていただきとても有意義な実習を送ることができました。

お忙しい中、我々のために時間を作っていただいた院長先生始め、和歌山病院の皆様ありがとうございました。